

【種別】

“[紅世の徒](#)”、[通称](#)

【初出】

X巻

【解説】

“[紅世の王](#)”。[真名](#)は“破暁の先駆”（はぎょうのせんく）と“夕暮の後塵”（せきぼのこうじん）。[炎](#)の色は二人揃ってオーロラ。

『[大戦](#)』までは初代『[極光の射手](#)』[カール・ベルワルド](#)と、現在は二代目[キアラ・トスカナ](#)と契約し、[鎧型の神器](#)“[ゾリヤー](#)”に意思を表出させている。

ウトレンニャヤは艶っぽい女性の声、ヴェチェールニャヤは軽くはしゃいだ少女の声。

二人存在しているのではなく、一つの体に二つの人格がある、一心同体の姉妹という他に類を見ない形の“王”。故に態度の差異はあれど根本の部分は同じのようだ。

カールともども浅慮な性格で、彼の失策を咎めるどころか一緒になって楽しんでいた。

その油断がたたき、三人揃って[シュドナイ](#)の『[神鉄如意](#)』に叩き潰され、二人は“[紅世](#)”に帰還した。

その後、19世紀末期にて、二代目『[極光の射手](#)』となるキアラと再契約する。

カールのことは大切に思っていた模様だが、彼に軽率な行動を取らせて死なせてしまった失敗から、キアラを丁寧に指導し大切に育て、常に気を配っていた。

なかなか成長しないキアラにも優しく接する場面が多く見られた。

現代では、キアラに余計なツッコミをしては鎧型の二つの髪飾りである“ゾリヤー”を握り締められて黙らされている。

【由来・元ネタ】

名前の元ネタはスラヴ神話に登場する女神 [ゾリヤー・ウトレンニャヤ](#)（Zria Outrenniaia）、[ゾリヤー・ヴェチェールニャヤ](#)（Zoria Vetcherniaia）と思われる。

姉妹神であり、ウトレンニャヤが明けのオーロラを、ヴェチェールニャヤが宵のオーロラを司る。

元ネタには、真夜中のオーロラを司るゾリヤー・パルノーチニャヤ（Zoria Polunochnaya）という三女もいる。

「破暁」の「破」は夜が明けることを、「暁」は明け方を意味していると思われ、「先駆」は馬に乗って先導することを意味する。

また、「夕暮」は夕暮れのこと、「後塵」は馬などが走ったあとにたつ塵のことである。

彼女たちの由来である双子の女神はそれぞれ明けのオーロラと暮れのオーロラを司り、彼女たちの役目とは太陽神ダジボグの馬車の出入りする門を守る番人である。

「先駆」も「後塵」も戦場を駆ける馬に関する言葉であり、それぞれ戦場を駆ける馬の前方・後方を意味する。更に、オーロラは古代スラブにおいて戦士を守る女神のヴェールとされていた。

これらを総合してこの“紅世の王”姉妹について考えると、彼女たちの能力は、オーロラの守りを纏って戦場を疾駆することと解釈できないだろうか。

そう解釈すると、真名全体で「戦場での疾駆の前方を守る極光」「戦場での疾駆の後方を守る極光」という感じになる。

【コメント】

一応真名の由来を投稿したが、真名と通称の関係は逆だから上の説明は少し変かもしれない、もしそれ以外の由来を解説できる人がいるなら是非修正してもらいたい。

「破暁の先駆」＝「夜明けの直前」、「夕暮の後塵」＝「日没の直後」でいいんじゃない？無理にオーロラを絡めなくてもいいだろう。

真名からは、極光よりも、地平線下の太陽から差す光が想起される。

[ハルファス](#)並みにやかましいな。

[アニメ第3期](#)で登場した。